



#### 参加者所属機関

これまでに、エアバス・ジャパン株式会社、朝日新聞社、ドイツ財界アジア太平洋委員会、日本銀行、ベルリン社会科学センター、コメルツ銀行株式会社、大同生命保険株式会社、ダイムラー株式会社、ドイツ・デロイト有限会社、株式会社電通、ドイツ・ヴェレ、ドイツ国際協力公社、ドイツ連邦雇用庁、ドイツ連邦外務省、ドイツ赤十字社、株式会社日立製作所、株式会社堀場製作所、日本国際交流基金、日本国厚生労働省、時事通信社、メルク社、三菱総合研究所、三井物産、ミュンヘン安全保障会議、パナソニック株式会社、独立行政法人理化学研究所、シーメンス株式会社、有限会社ドイツ住友商事、有限会社テュフラインランド・インタートラフィック、ディー・ツァイト新聞社(以上ドイツ名アルファベット順)をはじめ、日独の一流大学や研究機関、企業所属のヤングリーダーズが参加しました。

#### お問い合わせ

German-Japanese Young Leaders Forum  
日独ヤングリーダーズ・フォーラム

Sven TRASCHEWSKI スヴェン・トゥラシェフスキ

Japanese-German Center Berlin (JDZB)

ベルリン日独センター

Saargemuender Str. 2

14195 Berlin, Germany

Tel. +49 (0)30 839 07 150, Fax +49 (0)30 839 07 220

straschewski@jdzb.de

www.jdzb.de

≫国際社会が直面する問題を多角的な視点から議論することができたことは、さまざまな分野の参加者が集まるヤングリーダーズ・フォーラムだからこそ得られたユニークで素晴らしい経験でした。≪

丸山鳴、2019年参加者  
国連大学サステナビリティ高等研究所

≫卓越した講師陣と素晴らしい視察プログラムのおかげで、日独関係に関する洞察を深めることができました。また、多彩なバックグラウンドの参加者によるアクチュアルなテーマについての討論は刺激的で、非常に実り豊かなものでした。≪

ジェニー・レーマン、2019年参加者  
ベルリン州首相府

≫多様化と複雑化が加速的に進み不確定要素が増えていく現代社会にあって、ビジョンとパッションとプロフェッショナリズムを真に兼ね備えたさまざまな分野のヤングリーダーズに出会い、討議し、生涯の知己となれた本フォーラムでした。≪

関根真樹、2019年参加者  
B A S F ジャパン株式会社

写真提供  
表紙写真: ベルリン日独センター  
内側の写真: ドイツ連邦政府/KUGLER  
グループ写真: ベルリン日独センター



## 日独ヤングリーダーズ・フォーラム



Supported by YANMAR

一般財団法人山岡記念財団

YANMAR

YUASA M&B

DAIDO

大同生命

一般財団法人森記念製造技術研究財団  
DMG MORI



≫日独ヤングリーダーズ・フォーラムに参加し、地域および世界の喫緊の課題に係る日本の視点を直接知ることができました。また、参加者一人ひとりが自身の偽りのない強い価値観をもってフォーラムに参加したことを通じて議論が非常に奥深くなり、思考が研ぎ澄まされ、今後のグローバルな協力関係を創造的かつ有意義に形成する方法について学ぶこともできました。≪

ジーナン・アクデニツ、2019年参加者  
ドイツ連邦保健省

#### フォーラムの目的

日独ヤングリーダーズ・フォーラムは次世代を担うヤングリーダーズ（若手指導層）の関心を日独関係に惹きつけ、日独協力への参画を促すことを目的に2006年に発足しました。同目的達成に向けて、さまざまな職業に従事する有望なヤングリーダーズを招聘し、政治・社会関連のトピックスについて一緒に議論し、協力活動を通じて相互理解を深める場を提供し、日独間の今後の協力を強化し活性化させる持続可能なネットワークの確立を目指します。

#### プログラム概要

日独ヤングリーダーズ・フォーラムは、隔年交代でドイツまたは日本で開催されるサマースクールおよび同窓生大会で構成されます。サマースクールでは毎年日独にとって等しく重要な案件のなかから選んだテーマに関する専門家による講義、グループ活動、機関や企業の視察訪問、そしてまた過年度の参加者との会合といった多彩なプログラムを用意し、学びの場以外にもネットワーキングや交流のさまざまな機会をヤングリーダーズに提供します。

#### 参加 対象者

毎年ドイツ人8人および日本人8人の有望なヤングリーダーズを——16人の専門的背景が政官産学およびマスコミにいたるまで可能な限り多様であることを意図しつつ——慎重に選考

します。応募資格は25歳から35歳までのヤングリーダーズで、英語が流暢であることが必須条件です。

#### 資金拠出機関

2020年～2021年のフォーラム実施に必要な資金は大同生命保険株式会社、一般財団法人森記念製造技術研究財団、一般財団法人山岡記念財団、ヤンマーホールディングス株式会社およびユアサM&B株式会社、その他から提供される予定で、ヤングリーダーズがサマースクール参加に要する旅費、宿泊費、食費、移動費など基本的な支出が全てカバーされます。

#### 主催機関

日独ヤングリーダーズ・フォーラムの企画実施を担当するベルリン日独センターは、学術および文化の分野における日独協力および国際協力を促進し強化するために1985年に創設された非営利財団で、日独両国外務省およびベルリン州政府の支援を受けて運営されています。

#### ヤングリーダーズ・フォーラム同窓会

2011年に、それまでのフォーラム参加者（同窓生）が集まり、自ら積極的にフォーラムに貢献し、日独間の持続可能なネットワークの発展をさらに促進するためにヤングリーダーズ・フォーラム同窓会（ドイツ民法に基づく登記社団）を設立しました。

コロナ禍で自由な往来が制約される今だからこそ、このように多種多様な業種・分野から多彩な人材が集まり、ともに学ぶことで、相互理解を深めることができる本プログラムは非常に有意義だと考えます。日独関係は政治・経済分野のみならず、学術交流、文化交流、科学技術交流、市民社会間の交流も深化しています。本年は特に日独交流160周年にあたる年で、未来に向けた日独関係の構築のため、幅広い分野で相互理解を深め、両国の結びつきが更に深まる機運が高まっています。参加者の皆さんが本プログラムを通じて多くを学び、日独両国の関係をさらに深め、強化してくれることを願っています。



柳秀直 駐独日本国大使

グローバルな危機が深刻化するなか、若手リーダーこそ現在の問題解決を担う貴重な人材です。そのためにヤングリーダーズ・フォーラムは、ドイツと日本の未来を担うリーダーが共通の価値観に基づき現代の喫緊の問題について議論する貴重な場を提供します。



それは、意見交換の場であると同時に新しいアイデアを生み出すための相互学習の機会であり、信頼関係と長期にわたる友情の育成につながるものです。

イナ・レーペル  
駐日ドイツ連邦共和国大使